平成 18 年度

海外書誌ユーティリティ調査報告

目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する
検討ワーキンググループ

平成 18 年 9 月 30 日

はじめに

平成 18 年 6 月 13 日から 6 月 18 日までの 6 日間にわたり、「目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討ワーキンググループ」メンバーにより、米国の書誌ユーティリティである OCLC Online Computer Library Center、OCLC の地区サービス・プロバイダ（RSP：Regional Service Provider）及びアメリカの大学図書館を訪問調査した。

今回の海外調査は、本 WG の中間報告書において平成 18 年度の活動計画としていた、書誌ユーティリティにおける目録データベースの品質管理とそれに関連する目録担当者の研修の状況について現地調査し、今後の WG の検討に役立てるためのものであった。具体的には、OCLC については、WorldCat の品質管理及び研修プログラムについて、地区サービス・プロバイダについては、OCLC との連携のあり方及び関連する研修プログラムについて、そして大学図書館については、職員の研修の状況及びその他の活動状況などを調査対象とした。

訪問先は、次のとおりである。

1) 書誌ユーティリティ
   - OCLC Online Library Computer Center / Dublin, Ohio
2) 地区サービス・プロバイダ
   - PALINET / Philadelphia, Pennsylvania
   - Amigos Library Services / Dallas, Texas
3) 大学図書館
   - ペンシルバニア大学 Van Pelt-Dietrich Library Center / Philadelphia, Pennsylvania
   - テキサス大学ダラス校 McDermott Library / Dallas, Texas

今回は、実質的な調査期間が 3 日間という短期間であったため、訪問グループを二つに分けて、上記の機関を調査することにした。各機関とも 1 日あるいは半日の日程で対応していただき、効率的に調査を実施することできた。

この報告書は、今回の訪問でのプレゼンテーションやディスカッション及び提供していただいたいろいろな資料をもとに、さらにその他の資料を参照して作成したものである。訪問した機関からいただいた資料のなかで参考になると考えられた機関の戦略計画や関連資料の仮訳も附録として掲載しているので、ご参照いただきたい。

平成 18 年 9 月 30 日

OCLC (the Kilgour Building), Dublin OH

Amigos Library Services, Dallas TX

PALINET, Philadelphia PA

UTD, MacDermott Library, Dallas TX

UPenn, Van Pelt-Dietrich Library Center,
Philadelphia PA

目　次

はじめに

調査の目的と日程 …… 1

書誌ユーティリティ調査

OCLC 及び WorldCat の概要 …… 2
WorldCat の品質管理 …… 3
OCLC における研修プログラム …… 5
WorldCat の今後の動向 …… 7

地区サービス・プロバイダ（RSP）調査

PALINET …… 9
Amigos Library Services …… 13

大学図書館調査

ペンシルバニア大学図書館 …… 17
テキサス大学ダラス校図書館 …… 19

まとめ …… 21

【謝辞】 …… 23

附録

地区サービス・プロバイダ/サービスセンター一覧 …… 24
WorldCat の協力原則（仮訳） …… 25
各機関の戦略計画（仮訳）
OCLC「グローバルな協力拡大を再構成する」 …… 27
PALINET「戦略計画 2005-2008」 …… 30
Amigos「戦略計画 2007 まで」 …… 32

Ⅰ　調査の目的と日程

1　調査の目的

「目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討ワーキンググループ」（以下「講習会WG」という。）における平成17年度の文献等による海外書誌ユーティリティ調査を踏まえて、OCLCの研修方法・体制及び目録データベースの品質管理等について現地調査を実施することとし、目的として以下の3点を掲げた。

すなわち、

①目録システムに関わるe-Learning、チュートリアルに関すること

講習会WGの中間報告において、e-Learning手法の導入を研修プログラム改善の重要な対策としたことから、e-Learningのコース、実施方法及び実績等について調査する。

②目録データベースの品質管理に関すること

目録データベースの品質維持に関しては、目録担当者の研修以外にも、種々の方策がとられているはずである。品質管理の対応策、品質低下と研修プログラムの連携について調査する。

③OCLCと地区サービス・プロバイダの連携

地域活動との連携という観点から、OCLCと地区サービス・プロバイダ（Regional Service Providers、以下「RSP」という。）と呼ばれる図書館の地域ネットワークがどのような連携を図っているか調査する。

これらは、いずれも講習会WGの平成18年度の検討のなかで、具体的な対応策を考えなければならない事項であり、おそらく同様の問題を抱えるOCLCにおける実際の対応策を調査することで、今後の検討に役立てようというものであった。

2　日程

出張日程は、平成18年6月13日（火）から18日（日）の6日間であったが、実質的な調査日数は3日間しかないため、調査グループを二つに分け、RSP及び大学図書館について複数の機関を訪問調査することにした。

表1に訪問日程と訪問先・調査内容を示す。

表1　訪問日程及び訪問先

日付	訪問先	調査内容
2006年 6月14日 10:00-16:30	OCLC本部 （オハイオ州ダブリン）	・DBの品質管理 ・研修プログラム ・RSPとの連携
6月15日 14:00-17:00	ペンシルバニア大学図書館 （ペンシルバニア州フィラデルフィア）	・図書館員の研修 ・大学図書館の新サービス
6月16日 13:00-17:00	PALINET （ペンシルバニア州フィラデルフィア）	・研修プログラム ・OCLCとの連携 ・地域ネットワークとしての活動
6月16日 9:30-12:00	Amigos Library Services （テキサス州ダラス）	・研修プログラム ・OCLCとの連携 ・地域ネットワークとしての活動
6月16日 14:30-17:00	テキサス大学ダラス校図書館 （テキサス州ダラス）	・図書館員の研修 ・目録業務 ・大学図書館の新サービス

3　調査メンバー

調査メンバーは、以下のとおり講習会WGメンバー及び国立情報学研究所WG事務局担当の計10名で構成した。

表2　調査メンバー

グループ	氏　名	所　属
A	早瀬　均	名古屋大学附属図書館
	片山　俊治	広島大学図書館
	藤田　儒聖	島根県立大学メディアセンター
	小陳　左和子	国立情報学研究所
B	米澤　誠	東北大学附属図書館
	澤村　裕	関西学院大学図書館
	矢崎　美香	九州共立大学附属図書館
	横井　有紀	釧路工業高等専門学校
	相原　雪乃	国立情報学研究所
	成澤　めぐみ	国立情報学研究所（事務局）

II 書誌ユーティリティ調査

OCLC (http://www.oclc.org/)

1 OCLC 及び WorldCat の概要

OCLC は、北米のみならず南アメリカ、アジア、ヨーロッパ、中近東にサービス拠点をもつ最大規模の書誌ユーティリティである。OCLC のミッションは、「世界の情報へのアクセスを拡大し、図書館とその利用者に対するサービスによって、図書館経費を節減すること」とされ、職員数は約 1,200 人、年間の運営経費は約 1.85 億ドル (2005 年) である。

1.1 OCLC 会員館

2006 年 4 月現在で 111 か国 56,532 館が参加している。OCLC の会員館は、OCLC サービスの利用範囲に従って、次の 3 つのカテゴリに分けられ、メンバー評議会 (Members Council) への関与の度合いも異なっている。

- 「運営会員 (Governing Members)」: 目録作成を含むすべてのサービスを利用。メンバー評議会の委員候補権、投票権を持つ (16%)。
- 「会員 (Members)」: 目録作成以外のサービスを利用。メンバー評議会の委員候補権を持つ。(35.1%)
- 「参加図書館 (Participating Libraries)」: 目録、ILL 以外のサービスを利用。メンバー評議会への関与はない。(48.9%)

* 括弧内は当該カテゴリの全体に占める割合

1.2 地区サービス・プロバイダ (RSP) の役割

広大な国土をもつ米国の事情を反映して、実際の OCLC サービスの窓口は、RSP といわれる組織が担っている。通常、OCLC への参加は RSP を通して行い、OCLC サービス利用のサポートや研修も RSP が担当する。米国内の RSP としては、2 つの OCLC サービスセンターと 16 の地域ネットワークがあり、それぞれサービスする地域あるいは図書館グループを持っている。図 1 は、米国内の RSP 及びサービスセンター担当地域を示したものである。

また、RSP では海外 (Canada, Eurupa, Asia, MiddleEast&India, LatinAmerica&Caribeane) に対するサービスも活発化している。

なお、WorldCat 構築に関わる会員館の役割と責務については、「WorldCat の協力原則」(http://www.oclc.org/worldcat/contribute/principles/) 及び「WorldCat に対する貢献に関するガイドライン」(http://www.oclc.org/worldcat/contribute/guidelines/) に明文化されており、OCLC と会員館、そして RSP の共通理解とされている。

図 1 米国内地区サービス・プロバイダ/サービスセンター OCLC ホームページより引用 (http://www.oclc.org/contacts/regional/)

1.3 WorldCat

WorldCat は、OCLC サービス全体のベースとなる総合目録データベースである。OCLC のオンライン総合目録と共同目録作成サービスは 1971 年に開始され、今年が 35 年目にあたる。WorldCat は 2001 年からオープンシステム化が図られ、新しいプラットフォーム（Oracle 採用、フルテキストやデジタルコンテンツ等への対応、Unicode 対応、Dublin Core Metadata、FRBR（Functional Requirement of Bibliographic Record）のサポートなど）に移行した。最新の“Next Space”によれば、2006 年 4 月現在の図書書誌レコード件数は約 5,400 万件、その所蔵件数は約 96,000 万件である。昨年 Open WorldCat として、Yahoo、Google 等の検索エンジンからもアクセスできるようになった。

2 WorldCat の品質管理

2.1 概要

会員館による通常の目録処理には、2002 年にサービスを開始した新目録システム、Connexion が使われている。Connexion には Web ベースの「ブラウザ」と Windows ベースの「クライアント」という 2 つのインタフェースが用意されており、図書館システムが違ってもインタフェースは同じである。また、通常の図書館からのオンライン入力の他にバッチ登録サービスがある。バッチ登録サービスを使用すれば、遡及入力等で作成した目録データを WorldCat に一括登録することができる。また、業者（出版社など）や全国的な書誌作成機関（議会図書館（LC）、英国図書館、カナダ国立図書館、米国公文書館、国立医学図書館（NLM））の書誌データがバッチモードで登録されている。最近では Finnish National Bibliography、National Library of Education of Denmark、Dutch Central Catalog、National Union Catalog of Poland 等が追加された。

OCLC では、重複のないマスタレコードを維持することになっており、その品質は、OCLC、会員館、その他の品質管理プログラムによって維持が図られている。

2.2 OCLC における品質管理体制

目録データベースの品質管理の担当は、当初から OCLC 内部に設けられており、いくつかの変遷を経て、1998 年 10 月から現在の Quality Control Section（QCS）が担当している。QCS は、常勤スタッフ 6 名で、WorldCat データベースと典拠ファイルの品質管理を行っている。QCS の業務は主に次の 3 つである。

・データ内容の訂正
・データ内容の追加
・重複レコードの手動統合

2004 年 7 月から 2005 年 6 月の 1 年間の QCS によるレコード修正及び重複レコードの統合件数は、表 3 のとおりである。

表 3 QCS によるレコード修正（2004.7-2005.6）

修正の種類	件数
書誌レコードの修正	12,696,475
手動による書誌レコードの統合	25,453
書誌レコードの修正依頼	65,516

* http://associates.ucr.edu/1105fblo.htm より

品質管理の業務は 6 名でも非常に忙しいということであるが、以下に述べる種々のプログラムによる会員館の協力を得て、遂行されている。

2.3 品質管理方策

OCLC では、上述したとおり WorldCat についての協力原則やガイドラインが明確に示されている。また、目録データの入力システムである Connexion には、フィールドタグのヘルプや「OCLC 書誌フォーマットと基準」の参照、入力データのオンラインチェック等の機能がある。

オンラインチェックとしては、存在しないフィールドタグのチェック、繰り返しフィールドや必須フィールドのチェック、インディケータのコードチェック（コード

が空白の場合にエラーを表示）等があり、入力時の誤りを最小化する仕組みが導入されている。マニュアルには、重複レコードの作成を防止するため、最初の書誌検索と Create 直前の再検索をすることが指示されているが、目録システム上の対応ではないようである。

目録作成者について、特に資格制度は設けられていない。研修を行うことで能力の向上を図ることにしているが、質の低いレコードが目立つ場合は、RSP を通じて当該会員館に注意を喚起する（直接連絡する場合もある）。注意の通知回数は年 6 回程度である。

WorldCat 登録後のレコードの品質管理方法としては、QCS が実施する集中的な処理、会員館による品質管理及び全国的な品質管理の協力プログラムがある。

1) QCS による品質管理

①会員館からのエラー通知に基づく修正

会員館は、エラーを発見した場合に修正する権限がなければ、OCLC にエラー内容を通知することになっている。その通知内容に基づいて、QCS がエラーを訂正する。

エラーデータの通知は、文書、フリーダイヤルの FAX、E-mail、Web のフォーム、Connexion のエラー通知機能等により行われる。

②マクロプログラムよるエラーチェック･修正

同じパターンのデータ修正については、マクロプログラムを作成してエラーの検出や修正を行っている。これは、目録規則の変更による機械的な修正等にも用いられている。

③重複レコードのチェック･統合

Duplicate Detection and Resolution（DDR）というソフトウエアを使って、自動的に図書書誌の重複レコードの検出･自動統合を行っている。昨年、16 回目の処理が実行され、291,252 レコードが統合された。このソフトウエアは、1991 年から使用されており、これまでに、1,592,586 の重複レコードが統合されている。1 回あたり、平均約 10 万レコードが統合されていることになる。現在、新プラットフォーム用にプログラムの書き換えが行われているとのことだった。

2) 会員館による品質管理

①自館作成レコードの修正

自館が作成したレコードで、他館の所蔵がない場合は、修正ができる。しかし、すでに他館の所蔵がついている場合は、条件によっては修正できず、OCLC にエラー通知をすることになる。

②データ項目の追加（Database Enrichment）

フルレベルの目録作成権限を持っている会員館は、マスタレコードの項目を追加できる。また、CIP（Cataloging in Publication）レコードに対照事項フィールドの追加ができる。

③ミニマムレベルレコードのフルレベル化

フルレベルの目録作成権限を持つ会員館は、ミニマムレコードのフルレベルへのアップグレードを実行することができる。

* ミニマムレベルとは AACR2 の第 1 レベル、フルレベルは第 2 レベルの記述のこと。

3) 協力プログラムによる品質管理

①Enhance Program

品質管理作業の分散化を意図して 1983 年に開始された事業である。会員館の中から一定の条件を満たす図書館について、資料形態毎に WorldCat のレコード内容を追加･修正できる権限を付与する。会員館は、この事業に携わる目録担当者を管理する責務を持つ。また、事業参加の条件を満たしているかどうか、定期的に評価を受けることになっている。2006 年 1 月現在で 195 館がこの事業に参加している。

②CONSER Program

CONSER（Cooperative Online Serials）プログラ

ムは、LC が進める逐次刊行物の書誌レコードの品質維持の事業で、1976 年に開始された。このプログラムの参加者は、WorldCat に含まれる CONSER レコードを修正することができる。

③National Level Enhance Program

全国レベルの Enhance プログラムは、上記の Enhance プログラムの対象に加えて、書誌作成機関が作成した書誌レコードの品質向上を図ることを目的としている。この権限を持つのは、LC の目録担当者と PCC（Program for Cooperative Cataloging）会員館である。2006 年 1 月現在、50 図書館が参加している。

* PCC とは、LC が推進する全国レベルの目録作成に関する協力事業で、以下の 4 つプロジェクトがある。
・BIBCO（図書）
・NACO（著者名典拠）
・SACO（主題典拠）
・CONSER（逐次刊行物）
（http://www.loc.gov/catdir/pcc/）

なお、上記 2)及び 3)のプログラムによって、WorldCat レコードの修正等を行った会員館には、その修正内容にしたがって credit（対価還元）が与えられることになっており、プログラム参加のインセンティブのひとつになっていると考えられる。

2004 年 7 月から 2005 年 6 月までに上記 2)及び 3)によって変更されたレコード件数は、表 4 のとおりである。

表 4 書誌レコード修正状況（2004.7～2005.6）

プログラム	件数
データ項目の追加	90,294
ミニマムレベルのフルレベル化	71,253
Enhance Program	153,661
CONSER Program	59,636

* http://associates.ucr.edu/1105fblo.htm より

2.4 レコード調整

WorldCat のマスタレコードは、半数以上が英語資料であり、目録データは AACR2、LC の細則（LC Rule Interpretations）に基づいて作成することを原則としている。この規則に従っていない重複書誌レコードは、OCLC によって規則準拠の書誌レコードに統合される。したがって、会員館の目録担当者同士の間でレコード調整が発生することはない。しかし、最近は、会員館が世界的に広がっており、異なる規則に基づく書誌レコードが作成されてきたことについては、問題と捉えられている。

会員館からの通知に基づいて重複を調整する場合、OCLC には現物がなくても、必要に応じて会員館にプルーフ（情報源コピー）を依頼し、それに基づいて判定がされている。

3 OCLC における研修プログラム

3.1 概要

OCLC サービスの研修は、RSP の役割であり、RSP が責任をもって WorldCat ユーザの研修を行うことになっている。ただし、会員館のなかには、100 館程度 RSP に参加していない図書館があり、これらの会員館に対する研修･サポートは OCLC が対応している。OCLC における研修担当は、Independent Customers Support（単独顧客サポート）である。

3.2 OCLC のユーザ研修

OCLC の研修プログラムとしては、チュートリアルや Guided Tour 等の Web ベースの自習型（self-paced）研修プログラムが用意されている。すべて OCLC の Web サイトで公開されており、自由にみることができる。（http://www.oclc.org/education/tutorials/default.htm）

1) チュートリアル

Connexion 関連では、ブラウザ、クライアント及び所蔵管理等に関するチュートリアルが用意されている。チュートリアルは、モジュールに分割されており、モジュール単位でも参照できる。印刷用に PDF ファイルも用意されている。

Connexion ブラウザのコース構成を図 2 に示す。

図 2 チュートリアルの構成例

Connexion Browser チュートリアル
(275 分)

1. 概要 (15 分)
2. WorldCat の検索 (30 分)
3. Constant Data の管理 (22 分)
4. 書誌レコードの作成 (15 分)
5. メタデータの抽出 (20 分)
6. 書誌レコードの修正 (20 分)
7. 標目の管理 (18 分)
8. 書誌レコードの最終処理 (35 分)
9. 拡張パスファインダの利用 (60 分)
10. MARC タグ法入門 (40 分)

2) Guided Tour

Guided Tour は製品やサービスの特徴や利点を紹介する約 10 分程度のデモスライドである。ナレーションがついており、アニメーションも使用されている。製品やサービスについてさらに詳しく知りたいと思うきっかけとしての役割が期待されている。
(http://www.oclc.org/index/ez/default.htm)

自習型の研修セッションは、自分の都合にあわせて進行できるメリットがある。現在提供している QuestionPoint や FirstSearch の入門的なコースなどは、自習型セッションに最も相応しいということだった。ただし、自習型のコースのすべてに、テストが含まれるわけではない。テストの開発には多大な労力がかかるというのがその理由だった。

目録規則自体についてのチュートリアルは用意されていないが、MARC の tagging (タグ使用法) 入門セッションがある。また、WorldCat の上級コースの教材開発は、考えられていないようである。

3) Web Information セッション

Web ブラウザと電話を使って行うライブのオンラインセッションである。現在目録関連を含め 12 のセッションが用意されている。

OCLC の新しいサービスや機能の紹介、ユーザとのディスカッションを MS Live Meeting を使って行うもので、参加は無料である。
(http://www.oclc.org/education/shared/independent/default.htm)

4) ワークショップ

ワークショップは、基本的には RSP が提供するものであるが、RSP に属さない会員館に対しては、依頼に応じて (on request)、顧客サポートが直接実施することがある。

5) 研修教材の開発

教材開発は、原則としてアウトソーシングにより行われている。ただし、目録関係の部分については、かなりの部分を OCLC 内部で開発しているとのことだった。

チュートリアルの設計にあたっては、ドキュメンテーション・スペシャリストがアウトラインを書き、プロダクト・スペシャリストがコンテンツを渡して、それぞれの立場から意見を述べる。開発後は、ユーザである図書館員からのフィードバックを受けて、改善が施されている。ユーザからのフィードバックは、直接図書館から来る場合と RSP から来る場合とがあるが、同等に取り扱われる。ただし、フィードバックを全て取り上げるとは限らないとのことだった。

OCLC の顧客サポートと QCS その他の OCLC サービス開発部門は、緊密に連携しているとのことであり、ユーザから寄せられる質問や問題点を通して、サービスの改善やユーザの要請に対応した研修プログラムの開発が図られている。

3.3 RSP のユーザ研修

RSP が行う研修の中心となる集合型のワークショップでは、OCLC 作成の資料と RSP が独自に用意した資料が使われている。しかし、米国のように国土が広大なところでは、この形態の研修には、地理的・時間的な制約がある。

近年導入しているオンライン・ワークショップは、Web を利用したライブセッションで、地理的な制約

にとらわれず、製品の最新情報をタイムリーに提供できること、ワークショップの内容を記録しておき、再利用ができるというメリットがある。

OCLCは(RSPも)、ワークショップが最も効果的な研修だと認識している。集合型のインタラクティブな環境は、教師にとっても受講者にとっても最も効果的な研修形態である。オンライン・ワークショップは、地理的な制約はなくなるが、インタラクティブな機能が制限される場合がある。一方、自習型セッションは、自分の都合(self-paced)に合わせて進行できる。研修内容やユーザの環境条件によって、選択できる研修タイプが採用されているといえよう。

4 WorldCatの今後の動向

4.1 Content Cooperative Pilot (CCP)

現在OCLCはContent Cooperative Pilotというプロジェクトを進めている。これは、デジタルコンテンツ(写真、音声、ビデオ、文書等)をWorldCatに登録し、Open WorldCatやFirstSearchで検索・表示ができるようにしようとするプロジェクトである。デジタルコンテンツの総合目録的なアプローチを検証するプログラムでもある。

コンテンツのメタデータはConnexionで作成し、コンテンツそのものはOCLC Digital Archiveに登録される。コンテンツのタイプによっては、検索結果にサムネールを表示することも可能である。

2006年7月から12月までの6か月のプロジェクトで、17機関が参加している。目録情報とデジタルコンテンツが一度に検索可能となるという点で注目される。(http://www.oclc.org/productworks/contentcooperative/default.htm)

4.2 検索エンジンとの関係について

OCLCは、2005年にOpen WorldCatのサービスを開始し、Yahoo、Google等の検索エンジンからWorldCatが検索できるようになった。検索エンジンをどう考えるかについて、OCLC Asia PacificのExecutive DirectorであるWang氏に意見を聞いてみた。

Wang氏の主旨は次のようなものであった。すなわち、

「現在、検索エンジンが広く使われており、図書館の目録はもういらないという人もいる。しかし、検索エンジンは、どんな情報でも検索対象になっているため、膨大な情報が検索され、利用者はどれが有用な情報か混乱してしまう。一方、図書館の目録は専門職の図書館員によって選定された資料を反映している。そのことが図書館目録を利用価値の高いものにしており、実際に米国では、何百というデータベースがあるが、そのなかで大学において一番よく使われているデータベースがWorldCatである。WorldCatは、図書館が選書した資料の目録であり、その意味で目録作成は続けなければならない。“We have to continue cataloging”

・

・

・

しかし、今は大多数の人がYahooやGoogleを使い、OPACには来ないのが実状である。OPACのデータをYahooやGoogle等に入れることにより、検索エンジン経由でOPACに入ってくる利用者が増え、利用者を図書館に引き戻すことになる。」

OCLC 小史

1967　Ohio College Association によりオハイオ州立大学内に Ohio College Library Center 設置
1971　Online Union Catalog と共同分担目録システムのサービスを開始
1977　OCLC, Inc.に改称して、サービスをオハイオ州以外にも拡大
1978　OCLC Users Council 発足（現在の Members Council）
1979　オハイオ州ダブリン市に本部を建設
　　ILL サービスを開始
1981　OCLC Online Computer Library Center, Inc. に改称
1983　Enhance Program の開始
1994　National Level Enhance Program の開始
1999　WLN（ Western Library Network ）と合併
　　オランダ PICA に資本出資、OCLC PICA 形成
2000　CORC 運用開始
2002　Connexion オンライン目録作成サービス、QuestionPoint のサービスを開始
2005　Open WorldCat（Yahoo, Google 等）サービスを開始
2006　Research Libraries Group（RLG）と合併

品質管理プレゼンテーション

研修プログラムプレゼンテーション

OCLC 初代会長
Frederick G. Kilgour 氏のレリーフ

III 地区サービス･プロバイダ（RSP）調査

1 PALINET
（http://www.palinet.org/）

1.1 概要

1) ミッション

PALINETは、1936年に設立された非営利組織で、米国最大規模の地域図書館ネットワークのひとつである。PALINET は、メンバー館が、情報に関わる製品やサービスについて、革新的であること、経済的であること、を支援する。また、情報へのアクセス、資源共有、図書館協力、生涯学習を促進することをミッションとしている。2006年1月に、創設70周年を迎えた。

2) 会員

会員館数は、2006年4月30日現在603館である。学術図書館が約半数を占め、ほかに専門図書館、公共図書館、学校図書館なども加盟している。地域的には、ペンシルバニア、ニュージャージー、メリーランド、デラウエア、ウエストバージニアの5州を中心とするが、他の州や海外からの参加もある。

会費は、固定金額は設定されておらず、OCLC参加の程度、共同購入参加の有無によって異なる。新規参加の場合は、初期経費が課せられる。2004 年度（FY 2004/05）の会費による収入は、113万ドルであった。

3) 組織･予算

常勤職員は、25 名。年間の所要経費は、約240 万ドルである。収入の約半分を会費から得ているほか、共同購入による収益、OCLC からの委託料、研修、コンサルティング等が収入源となっている。

4) 事業

PALINET は、図書館ネットワークであることから、会員向けに以下のように多様な事業を行っている。

･コンサルティング
･デジタル化と保存
･研修プログラムの提供
･共同購入
･OCLC サービス
･最新情報技術の提供

1.2 OCLC との協力関係

1) 経緯･位置づけ

PALINETとOCLCとの協力関係は、1972年から継続しており、RSP としては2番目に古いとのことである。OCLC との良好な協力関係を維持する理由としては、次の2点が挙げられた。

①会員館の効果的なOCLCサービス利用を支援すること： PALINET では、会員館が OCLC サービスを効果的に利用できるように、専門スタッフによるサポート、研修体制が整えられている。また、会員館に対して、ブログ、RSS フィード、ポッドキャスト、リストサーブ等によって、OCLC 関連の最新情報の配信とコミュニケーションの場が提供されている。

②OCLC はデファクトスタンダードを作り上げるパワーを持つ組織であること

2) WorldCat の品質管理

PALINET がこのことについて果たす役割は次の2点である。

①Enhance Library への支援

Enhance Library とは、4 ページで紹介した Enhance Program の会員館となることである。PALINET会員館のなかでは、20～30の図書館が指定されている。（資料種別毎の指定なので、同じ図書館が複数の資料に参加している場合がある。）

②OCLC 関連研修プログラム

OCLC関連の研修コースを多数用意し、会員館に提供している。現在では、最も中心的な役割となっている。詳細は、後述「1.3 PALINET

の研修プログラム」を参照。

3) 目録データエラー増加

以前は PALINET もエラーデータを修正していたが、現在は OCLC が集中的に行っているとのことである。エラーデータ増加の主な原因として挙げられたのは、次の 2 点である。

①専門職（MLS 保持者）による目録作成の減少

目録担当の専門職が減少しつつある。目録関連の受講者のなかには、目録を一度も作成したことがない受講者もおり、このことがエラーの人的な要因ではないか、とのことであった。

②目録規則が改訂された影響

第 2 の要因としては、目録規則の変更によって、古い規則で作成された書誌レコードの修正が必要になる場合がある。これについては、OCLC においてソフトウエアによる一括変更も実施されている。

なお、現在の WorldCat は、MARC と DC という二つの標準形式が混在しており、そのことが混乱を招く要因になっているのではないか、との指摘もあった。

1.3 PALINET の研修プログラム

1) 開催状況

2004 年度は、161 のワークショップが開催された。内訳は、OCLC 関連ワークショップ 76、その他のワークショップ 25、Live Online（OCLC、その他含む）54、業者によるセッション 6 であった。この間の受講者は、1,400 人であり、その内訳は OCLC 関連ワークショップ 729 名、その他ワークショップ 279 名、遠隔研修 321 名であった。

2006 年 1-6 月は、127 のワークショップを開催、そのうち、OCLC 関連ワークショップ 60、その他ワークショップ 67 である。

研修参加は有料で、コースによって料金は異なっている。

2) 研修タイプ

集合型研修、Live Online 研修、自習型研修が設定されている。

OCLC 関連ワークショップは、集合型研修 16（PALINET で開催 4、他機関で開催 12）、Live Online 研修 44。その他ワークショップは、集合研修 23（PALINET で開催 13、他機関で開催 10）、Live Online 研修 39、自習型研修 5 である。

3) コース内容

OCLC 関連では、会員館が、OCLC の製品やサービスを適切に利活用できるように、入門から応用まで多様なコースが設定されている。

①OCLC 関連コース

- OCLC 目録基礎―Connexion Browser を初めて利用する人のために（Part 1, 2）
- Connexion Client 発展編（カスタマイズ、バッチ処理など）
- OCLC Connexion の効果的な検索方法―目録担当者のための検索技術基礎
- MARC Tags 基礎
- WorldCat リソースシェアリング基礎（Part 1, 2）
- WorldCat リソースシェアリング管理
- Union List 基礎（Part 1, 2, 3）
- FirstSearch （基礎、上級）
- ILL ポリシー
- Question Point 基礎
- CONTENTdm 入門

また、OCLC 関連以外では、目録関連、情報技術の図書館サービスへの応用方法、図書館の管理・運営のための最新動向に係る知識を習得できるコースが設定されている。

②OCLC 以外のコース

- メタデータ概論（Part 1, 2, 3）
- インターネットリソースの目録作成（Part 1, 2）
- 著作権の動向（Part 1, 2）
- 逐次刊行物の目録作成基礎（Part 1, 2）
- 典拠コントロール

・Dreamweaver MX によるウェブページの作成
・RFID
・Blog, Splogs, Wikis, Feeds
・Podcasting (Part 1, 2)
・遠隔学習やウェブベース教育のためのインストラクショナルデザイン
・図書館マーケティング
・デジタル化・保存プロジェクトの助成申請書の書き方

4) 依頼によるワークショップ

PALINETで予め用意するワークショップの他に会員館からの要請に応じて、ワークショップを開催することもある。

5) Network Education Exchange

Network Education Exchange は、RSP によるオンライン研修プログラムの共同事業で、Amigos、NELINET、Nylink、PALINET、SOLINET が参加している。これらの地域ネットワークが作成したコースを共同利用することで、研修コースの充実が図られている。会員館は、他の RSP が提供する研修コースを受講できる。

6) 受講結果の評価

ワークショップ終了後、受講者に対して、2 種類のアンケートと評価を実施している。

①理解度確認チェック

受講者自身に研修事項単位に理解度を5段階で記入してもらう。「理解できていない (poor)」と回答のあった受講者には、講師が個別に連絡して対応する。必要があれば、再受講 (無料) も可能としている。

②講師評価シート

研修内容、講師、研修時間や教材等について5段階評価 (非常に満足、満足、ふつう、不満足、極めて不満足) をしてもらい、教育プログラム及び講師の指導技術の改善に役立てている。

7) 資格認定

PALINET は国際継続教育訓練協会 (IACET: International Association for Continuing Education and Training) の認定機関になっており、すべてではないが、PALINET の研修プログラムを修了すると CEU's (Continuing Education Units) が与えられる。CEU's は、大学等の教育機関が出す履修単位と同じではないが、いろいろな認定制度で考慮される単位であり、研修を受講するインセンティブを高める効果もあると思われる。

1.4 地域ネットワークとしての活動

1) 共同購入

データベース、電子ジャーナルを共同購入している。コンソーシアムとしては最大規模となる80のベンダーと交渉し、平均 10%のディスカウントをとりつけ、年間120万ドルを節約している。節約できた金額の半分を PALINET の収益としている。

会員館に対して経済的効果の大きい (節約金額の大きい) ビジネスパートナーの上位 5 社は次のとおりである。

・Lexis/Nexis (約 40 万米ドルの節約)
・EBSCO
・Serials Solutions
・Oxford University Press
・Project MUSE

2) コンサルティング

図書館の業務を調査・分析し、改善策を提言する。資料保存に関する実地調査及び提言、資料の電子化に関する調査、その他、目録・メタデータ作成、システム導入、資金調達について、など図書館の求めに応じたコンサルティングを行っており、幅広く図書館業務を支援している。

PALINET 小史

1936	PALINET の前身である ULC (Union Library Catalog of the Philadelphia Metropolitan Area) 設立
1967	PRLC (Pittsburgh Regional Service Center, ピッツバーグ) 設置
1972	ULC OCLC に参加 ULC 内に PALINET 設置
1975	ULC が PALINET and the Union Library Catalog of the Pennsylvania (PALINET/ULC) と改称
1995	PALINET と PRLC が合併。PALINET となる
2004	ピッツバーグ事務所を閉鎖。運営拠点をフィラデルフィアに一本化
2006	創設 70 周年

ディスカッション

Live Online デモ

2 Amigos Library Services (http://www.amigos.org/)

2.1 概要

Amigos は、2006 年で創設 31 年目になる非営利の会員制組織である。「革新的なサービスの提供」、「図書館協力と資源共有の促進」、「コミュニティリーダとしての図書館の強化」及び「教育・情報プロバイダとしての図書館の支援」をそのミッションとし、2006 年 6 月末現在の会員館数は、764 である。

会員サービスの種類と会費は以下のとおり。

○Amigos 一般会員サービス：年会費　350 ドル

○OCLC フルユーザー会員サービス：年会費 1,450 ドル（Amigos の会員サービスを含む。）

会費については、大学や図書館の規模には関係なく一律である。

また、Amigos は国・州の補助は受けずに会員館の年会費で運営されている。会費の料金体系は RSP によってそれぞれ異なるが、Amigos は中くらいの料金だということであった。

2.2 目録業務に関わる標準規則について

北米の目録関連の規則・標準として、目録規則である AACR2、書誌・典拠及び所蔵レコードの形式を定める MARC、電子資料のメタデータ形式 Dublin Core、さらに、典拠コントロール、件名、分類法について標準がある。

また、標準化に関わる組織としては、LC、ALA（アメリカ図書館協会）と OCLC がある。LC は MARC 形式の維持について責任を持っている。LC の分類表や件名標目表は、標準的な規則として多くの学術図書館に利用されている。LC が全国的に進めている BIBCO、NACO 及び CONSER も書誌レコードの品質管理に関わるプログラムである。

ALA も標準規格の推進・維持を進めており、AACR2 を出版している。特に、Association for Library Collection & Technical Services（ALCTS）と Library & Information Technology Association（LITA）の 2 グループが LC の進める全国的な書誌レコードの形成に関わっている。

2.3 OCLC の協力関係

OCLC の WorldCat は、米国における業界標準の書誌データベースであり、殆どの図書館がこれをベースとして目録作成や ILL を行っている。

Amigos、SOLINET、NELINET 等の RSP は OCLC と取り決めを結び、OCLC サービスの利用者に対して必要な研修やサポートを提供することになっている。

前述したように、OCLC メンバー協議会によって、WorldCat の協力原則と WorldCat に対する貢献についてのガイドラインが定められている。この原則とガイドラインは、OCLC-RSP-会員館間のルールを文書化したもので、会員館はこの内容を理解した上で参加する。

Executive Director の Bonnie Juergens 氏は、このことに関連して次のように述べられた。

「共同分担目録（Shared Cataloging）で重要なことは、参加図書館が価値観とルール（OCLC の場合は上記ガイドライン等）を共有していることである。もし、参加図書館が責任をもって参加するということでなければ、すべてが崩れてしまうだろう。参加図書館がその役割を果たさなければ、共同分担目録は機能しない。これが共同分担目録に 30 年関わってきて学んだことである。」

RSP は、会員館が OCLC サービスの利用についてルールを守るように、適切な教育研修を行う責任を負っている。

2.4 Amigos における研修プログラム

1) 開催状況

2005 年では 303 のセッション（OCLC 関連以外の研修プログラムも含む。）が用意され、3,111 名が参加した。

研修は有料であり、典型的なコースで受講料は 1 日 145 ドルである。また、大学等の依頼に応じて 10～15 人を対象にワークショップを行うこともあり、この

場合は1日あたり900ドルとなる。研修コースが有料であることから、何度でも受講することができるが、OCLCのシステムやサービスは継続して更新されているので、再受講の要求はあるとのことだった。

2) 研修のタイプ

①研修タイプ

Amigosが提供する研修のタイプとしては、次のものが用意されている。

○オンラインチュートリアル
○自習型(self-paced)研修
○Live Online研修
○集合型(face-to-face)研修: Amigosセミナー室の他、Amigosの研修担当者がアリゾナ、ニューメキシコ、オクラホマ、アーカンソーへ出張して行う場合もある。

②遠隔教育(distance education)システム

Amigosが遠隔(通信)教育(オンラインチュートリアル、自習型研修、Live Online)のために導入しているソフトウエアは次の3つである。

○ToolBook(自習用)
○Centra eMeeting(Live Online用)
○Moodle Course Management System
(コースウエア、オープンソースソフトウエア)

遠隔教育のコースとしては、177のコースがあるが、コースは常に更新されており、コースの数は変更がある。

3) 研修内容

以下は、Amigosが提供している研修プログラムあるいはユーザの研修の場として紹介されたものである。区分の仕方もAmigos独自のものとなっている。

①正規(formal)の研修プログラム

a. OCLCチュートリアル
b. 新規会員館に対する研修:OCLC会員館の新規採用者は全員に研修を行う。2日間の研修で、研修内容は以下のとおり。
・OCLC、Amigosの概要、品質管理
・Connextionのセットアップ方法
・WorldCatの検索
・書誌レコードのMARC形式について
・書誌レコード編集・新規作成
・典拠コントロール
・オフラインファイルのバッチ処理について
c. リフレッシュ研修、新規採用者研修
d. 特定トピックに関する上級研修
e. 標準規格に関する研修:目録作成、MARC形式、分類法、典拠等。LCやALAとも協働する。
f. 遠隔教育プログラム:急速に増加している研修タイプで、現在はAmigos独自のプログラムを提供している。他のRSPとも協力してコースの開発を行っており、Amigosはその中心的な役割を担っている。
g. 依頼(on request)による研修:会員館からの依頼に基づいて実施する研修で、オンラインあるいはオンサイトで実施している。

②非公式(informal)の研修プログラム

a. Amigosから提供する(proactiveな)もの
ⅰ.研修後のフォローアップ
初任者研修のフォローアップとして1か月後位に図書館を通して、さらに必要な情報があるか等様子を聞くことがある。また、会員館が正しい目録レコードを作成しているかどうかについてOCLCと協力してチェックしている。OCLCにはミスの報告があるが、特定の会員館についてミスが多いとOCLCから連絡があった場合は、Amigosがその会員館に連絡をとり、対応する。
ⅱ.STOP(Short, Timely, Online, Pertinent)& Learn Online Classroom
OCLC事業やサービスの最新情報を提供するオンラインセッション。
ⅲ. 会議でのプレゼンテーション

b. ユーザからの問合・依頼による対応(reactiveな方法)

ⅰ.サポートデスク

電話、メール等による問合せに対応している。

ⅱ.ユーザ･ドキュメンテーション

ユーザの学習やスキルアップの方法としては、ユーザ･ドキュメンテーションの活用がある。OCLC は、いろいろなマニュアル類や Tip Sheet を作成して Web サイトで公開している。また、Amigos も Tip Sheet 等を作成して、OCLC のサービスを紹介し、ユーザと OCLC との仲介をしている。

ⅲ. コミュニティ（協議会、ユーザ会など）

OCLC と Amigos は、電子的な意見交換の場も提供している。OCLC は目録や ILL の Listserv を運用しており、それを通して、スキルの向上や共有化が図られている。図書館員がブログを立ち上げているケースもある。

Amigos では、研修内容が必要な事項を満たしているかどうか確認するための内部資料として、「OCLC システム使用技術チェックシート」を用意している。オンラインの研修コースを作成するとき、このチェックシートによって、必要事項がカバーされているかどうかをチェックするとのことだった。また、このチェックシートは、Amigos が適切な研修コースを提供していることの証ともなるとのことである。

3) 教材

研修で使う教材については、一部は OCLC が提供するが、研修コースに合わせて Amigos で作成する教材が殆どである。PowerPoint のスライドをはじめ、ハンドアウトや Tip Sheet のようなものも作成している。これらは、ファイルの形式で提供され、冊子体としては用意していない。受講者がダウンロードあるいはプリントアウトして利用する。

また、連携している他の RSP と教材を共有することも進めている。（p.11 参照。）

研修の内容や教材の見直しは、四半期に一度くらいの割合で行う。OCLC のサービスの変更に合わせての見直しがほとんどとのことである。

4) サポート体制

会員へのサポート体制としては、サポート/ヘルプデスクスタッフ 4 名と研修担当者 4 名が対応している。研修担当者のうち 2 名が主として OCLC サービス対応で、1 名が目録の専門家、1 名が ILL の専門家である。その他の 2 名は主に OCLC 以外の研修に対応しており、うち 1 名はレファレンスの担当、1 名は情報技術の担当で、デジタルコレクションにも対応している。非常に忙しい部署であり、画像保存部門のスタッフなど他に数名が必要に応じて支援している。

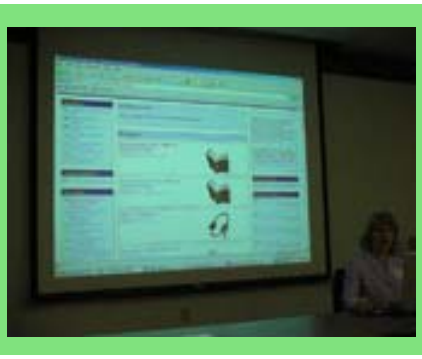
5) 受講結果の評価

自習型の研修コースでは、コース受講後に半ページ程度のレポート（エッセイ）を提出してもらってから修了証を交付している。受講コースのアクセス期間は 3 か月であり、1 週間でコースを終了し、残りをレポートに充てることもできる。期間内に繰り返し学習した後、レポートを提出することもできる。Amigos 自体が、評価をする権限をもっているわけではないので、レポートの内容や量は問わないとのことであった。

集合型及び Live Online の研修では、以上のようなアサインメントは課していない。講習会に参加すること、研修を受けることに意味があり、受講者が研修内容を習得しているかどうかは、会員館が作成した目録データに誤りがないかどうか等を見て判断せざるを得ないとのことだった。

Amigos Library Services 小史

1973	Interuniversity Council of the North Texas Region と OCLC の間で最初の契約が成立
1974	Amigos Bibliographic Council 設立
1978	テキサス州の非営利法人組織となる
	Amigos Resource Center 運用開始
1981	Amigos Computer Center 運用開始
1991	Preservation Service 開始。OCLC から Full Service Plus Status を授けられる
1999	Amigos Library Services と改称
	Trans-America Express ILL Courier Service を開始
2001	BioOne 販売キャンペーン開始
	Learning@Amigos.org という遠隔学習プログラム開始
	California 州の図書館へのサービスを開始
2005	償還により Amigos オフィスビルの所有権を取得



プレゼンテーション

ディスカッション

IV　大学図書館調査

1　ペンシルバニア大学 (http://www.library.upenn.edu/)

1.1 概要

ペンシルバニア大学(Penn)は、1740 年創設の米国で 4 番目に古い私立大学である。図書館は、その 10 年後の 1750 年に設置され、すでに 250 年以上の歴史をもっている。

学生数は、約 20,000 人で、4 学部、12 研究科がある。正規の職員数は、13,239 人(教員を含む。)で、他に大学病院を含む大学医療システムには 11,726 人の職員がいる。Penn はフィラデルフィアで最大、ペンシルバニア州でも 2 番目に大きい雇用主とされている。

Penn 図書館(Penn Library)は、Van Pelt-Dietrich Library Center をはじめ、15 の図書館から構成されており、蔵書数、図書館職員数及び図書館経費は以下のとおりとなっている。

○蔵書数	
・図書	5.47 百万冊
・継続雑誌	43,931 誌
・電子ジャーナル	13,866 タイトル
・電子ブック	284,756 タイトル
・ビデオ/DVD	12,171 タイトル
○職員数	400 人
・専門職	118 人
・非専門職	177 人
・学生	105 人(full-time)
○図書館経費	48.148 百万ドル
・蔵書構築	13.977 百万ドル
・その他の運営費	34.171 百万ドル

*Penn Library facts 2004/2005

1.2 職員研修(staff development)

Penn 図書館では、これまであまり組織的な職員研修を実施してこなかったが、今から 2 年前に、利用者の情報リテラシー支援を強化するために、図書館員のスキルの向上を目的とする研修プログラムの企画ワーキンググループ(Working Group on Teaching and Instructional Services)が設置された。ワーキンググループには全学の図書館から、4 人の図書館員が指名されている。

現在は、Library Education Extravaganza と呼ばれる講演会形式のものと、実務上の知識の習得を目的とした研修プログラムが企画されている。2006 年には、Extravaganza として、「消費者の選択と社会感染」、「教員のニーズについて図書館員が知っておくべきこと」という演題で大学の教員 2 名が講師を依頼されていた。

職員研修プログラムとしては、これまで、目録担当者による「OPAC の将来」、システム担当者による HTML 講義、レファレンス担当者による「レファレンスデスクでのデータと統計」(2006)等のトピックが取り上げられている。

ワーキンググループの活動は、毎年見直しがされることになっており、その活動内容は、利用者サービス会議(Public Services Council)で報告されるとのことだった。

1.3 Penn 図書館のデジタルプロジェクト

1) Data Farm

図書館では、種々のタイプの資料が利用に供され、多様なサービスや情報が提供されているが、それらの利用実績、活動結果を統一的に計量化し、経営情報として活用できるようにしておくことは極めて重要である。

Data Farm は、そのような要請に応えるために開発された Penn 図書館活動に関する定量情報のリポジトリである。具体的には、サーバ類に蓄積されたログ、図書館システムのトランザクションデータ、人材データその他諸々の統計データ等を正規化して蓄積しておき、情報資源の適正な管理、サービスの改善、活動評価に必要な定量情報を提供することを目的としている。これによって、統計書の迅速な作成、オンラインによる統計情報へのアクセス等が

実現された。経営情報として多目的に活用できるものとして、管理者からも高く評価されているとのことだった。

Data Farmで作成されたスクリプト類も公開されている。(http://metrics.library.upenn.edu/prototype/datafarm/)

2) コースウエア

コースウエアは、効果的な授業設計・運営、授業関連情報の提供等に活用されているが、Penn では、図書館がシステムの運用管理を行っている。

図書館では、以前から独自のシステムにより授業関連情報を電子的に提供していた(E-Reserve)が、それを市販の授業管理システムである Blackboard に移行した。現在、1,250 のコースで使用されており、図書館は、Blackboard の利用に関して教員の相談にのる他、授業で使用する必読文献の登録、電子ジャーナルや電子ブックとのリンク付け、リサーチガイド等図書館作成資料とのリンク付けなども行って授業を支援している。

電子ジャーナルや電子ブックによって、必読文献等の授業関連情報の登録が軽減されることが期待されているが、最も大きな課題は運用経費であるとのことだった。

(http://www.library.upenn.edu/courseware/)

3) VCat

Penn 図書館には、12,000 以上のビデオや DVD が所蔵されているが、目録データだけでなく、内容の紹介、配役、監督、音楽、製作者などのデータを追加し、一種の注釈付書誌を実現したものである。図書館システムとも連携しており、利用状況も表示される。映画学科をもつ Penn ならではの取り組みといえる。

(http://www.library.upenn.edu/catalog/vcat/)

4) PennTags

Social indexing のひとつである Social bookmarking を利用した新しいサービスで、Penn 図書館が開発した。Bookmark は Webブラウザで利用者が再度アクセスすると思われるサイトを登録する機能であるが、それを大学構成員の協同作業による情報資源発見のツール構築に応用しようという試みである。登録は大学の構成員に限られている。

登録者は、サイトの登録にあたって、注釈と tag(キーワード)を付けることができる。OPAC の詳細表示画面や上記の VCat の詳細表示画面には“Add to PennTags”というリンクが表示されており、検索結果を PennTags に登録できるようになっている。その他論文の書誌事項、電子ジャーナル等も登録できる。また、学習や研究等に有用なサイトを自分なりの注釈を付けて登録できる。

(http://tags.library.upenn.edu/)

5) BorrowDirect+

BorrowDirect と E-ZBorrow の二つのサービスが含まれる。いずれも、相互貸借の依頼を図書館を介さず、利用者が直接行うものである。これによって、経費の節減と所要時間の短縮を図ろうとしている。

BorrowDirect は、2002 年にペンシルバニア大学、ブラウン大学、コーネル大学及びコロンビア大学の 4 大学で始め、その後ダートマス大学、エール大学、プリンストン大学が参加した。

E-ZBorrow は、2004 年にペンシルバニア州を中心とした 42 の大学図書館が協力して開始したサービスである。

Penn 図書館では、これらの利用者起動(patron initiated)の相互貸借が年々増加している。2005 年では図書館を仲介とした従来の現物貸借の 2 倍以上になり、期待通りの効果を挙げているとのことだった。

1.4 施設見学 ― Information Commons

施設見学では、今年 4 月に開設したばかりの Information Commons を案内していただいた。もとの閲覧室を改修して、学生のグループ学習や共同研究の支援、情報リテラシー(情報技術、ライティング等)の向上を目的とする施設・設備及びサービスの総合窓口である。

School of Arts and Sciences、教育研究担当の副

学長室及び図書館という三者の共同事業として実現した。約 600 平米のスペースの中に、パソコンや大型ディプレイを備えるデジタル･メディアラボ、グループ学習室、セミナー室、ブース等が配置されている。このエリアでは、飲食も可能となっている。これは図書館にとってひとつのチャレンジであったとのことだが、今まで問題となるような事例はないとのことだった。Information Commons 自体は以前から北米の大学図書館を中心に設置されているが、最近では、Learning Commons と呼称される場合もあることからもわかるように、単に情報技術の習得の場ではなく、大学内のさまざまな組織が協力して、学生の学習全般を支援するサービスの統合的な窓口と位置付けられている。

Information Commons

Digital Media Lab
(Information Commons)

ディスカッション

2.テキサス大学ダラス校
(http://www.utdallas.edu/library/)

2.1　テキサス大学ダラス校（UTD）概要

テキサス大学ダラス校は、1961 年に Graduate Research Center of the Southwest として創立され、1969 年にテキサス大学システムのひとつの大学となった。現在は 7 つの学部、29 の研究センターをもち、学生数約 14,000 人の総合大学である。キャンパスはダラスダウンタウンの 18 マイル北側のリチャードソンに位置し、通信先端技術企業が多く存在する中心にある。

2.2 マクダーモット図書館

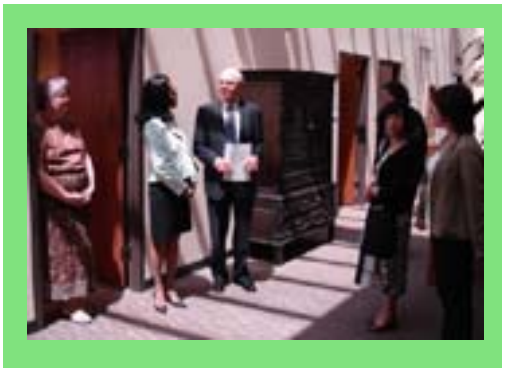
マクダーモット図書館 (McDermott Library) は、テキサス大学ダラス校の広大なキャンパスの中央東側に位置する 4 階建ての建物の図書館である。2005 年に創立 30 周年を迎え、蔵書数 1,247,265 冊、資料購入費は昨年度 3,075,570 ドル、諸経費

は 3,054,228 ドルである。

開館時間は月曜から木曜は午前 8 時から午前 2 時、金曜は午前 8 時から午後 12 時、土曜日は午前 9 時から午後 8 時、日曜日は午後 1 時から午前 2 時となっており、昨年 8 月から閉館時間を午後 12 時から午前 2 時に延長している。

2.3 施設･設備見学

Ms. Loreen Phillips (Head of Information Literacy Services) の案内で閲覧席、グループ学習室、貴重資料室、マイクロ資料コーナー、地図コーナーなどを見せてもらった。途中、館長室の前で Dr. Larry D. Sall : Dean of Libraries 第 11 代図書館長から歓迎の言葉を受けた。



館内各所には図書館案内サービスについての案内掲示があり、ライブラリアンチャット、E-mail レファレンスなどについて説明されている。マクダーモット図書館では、Web でリアルタイムに、または E-mail で図書館に質問できるサービスがあり、この他にも電話でのレファレンスも行っている。

また、館内各所に Food Policy として飲食注意の掲示がされている。これによると密封式の飲物は許可されていて食べ物もポテトチップス、ナッツ、クッキー、プレッツェルなどのお菓子類は認められている。昨年夏まで飲食は全面禁止としていたが、実際にはピザを注文したりする人もいたりして図書館内の環境保全という観点から苦慮していた。しかし、利用者の要求も多いこともあり、食事を持ち込んだりすることは控えて代わりにお菓子類のみは認めると方針に変更した。

2.4 目録セクションにおける研修

Ms. Debbie Montgomery (Head of Electronic Resources) に目録セクションでの研修について話を伺い、また、実際に書誌作成をするシステム操作も見せていただいた。

目録セクションには、プロフェッショナル 3 名とアシスタント 4 名が所属。スタッフへの研修は、OJT が主であり、新人は、Web Basic Course を受講する。新人研修は、UTD のポリシーとして、訓練の機会が与えられていてスケジュールを決めて行っている。目録担当者として一人前になるには、4～6 週間のコピー目録作成の時期を経なければいけない。

既に担当となっている者が新しい知識を得たり、再教育を受けたりすることも多いが、その場合の研修の頻度は決まっておらず、必要に応じて受けてもらっている。以前はより経験のあるスタッフが経験の浅いスタッフを教えるという正式な研修を行っていたが、講師役のスタッフが他大学へ異動したため、今は行っていない。また、他大学と共同で研修を行うことはしていない。Amigos Library Services の研修はオーソドックスな部分を教えるコースでそれだけでは十分でないので、UTD で独自のルールを作って補足して習得させている。

WorldCat の品質については満足しているわけではないが、他に選択肢はない。オリジナル目録作成で貢献している自負はある。また、OCLC の年間利用料 (1,450 ドル) については決して妥当な値段とは思えないが、RSP の活動は、目録サービスだけではなく、電子資料のコンソーシアムや他の図書館サービスも含まれていて欠かすことのできないものであるという意見であった。

Ⅴ　まとめ

1　OCLC･参加図書館･RSP

図 3 は、OCLC、参加図書館及び RSP の役割と関係を示したものである。

上述した「WorldCat の協力原則」(1996 年採択) 及び「WorldCat に対する貢献についてのガイドライン」(1999 年採択) は、このような枠組みを維持するために、OCLC、会員館及び RSP それぞれが WorldCat の共同構築において、果たすべき役割を示すものである。図書館は、WorldCat に参加するにあたり、これらの原則及びガイドラインに従うことを求められる。また、RSP は、OCLC と会員館の円滑なコミュニケーションを図ることにより、問題に対して迅速な対応をすることが求められている。

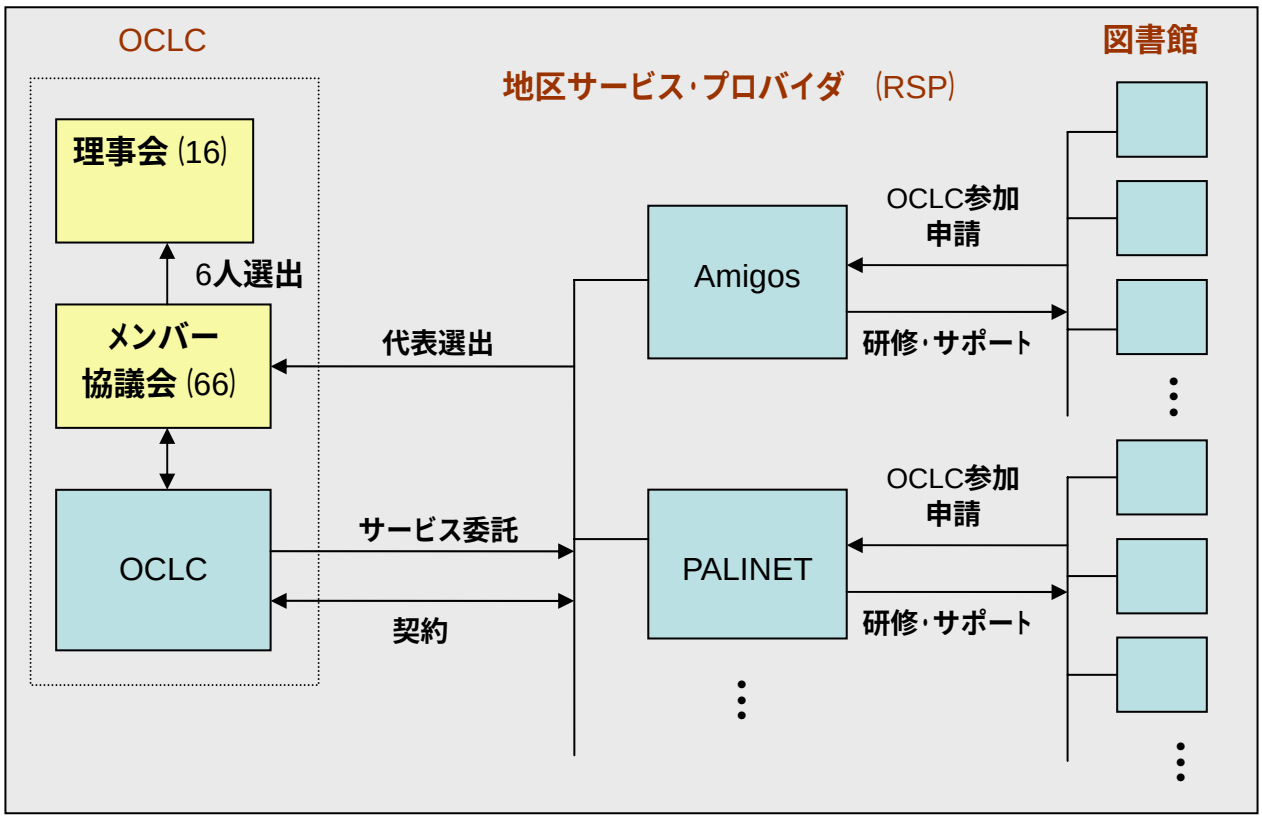


図 3　OCLC、会員館、RSP の関係

2　WorldCat の品質管理方策

目録データ入力時のエラー発生を最小限にしようという Connexion の仕組みはあるものの、WorldCat レコードの記述内容のエラーや重複書誌レコードは、数多く発生している。

WorldCat データベースは、会員館によるさまざまな協力プログラムと QCS による集中的な作業によって品質維持が図られている。すなわち、会員館のなかで、フルレベルの目録作成、Enhance プログラムあるいは全国レベルの Enhance プログラムへの参加が認められている図書館は、それぞれの権限の範囲で、レコードの修正、データの追加を行い、その作業内容に基づき credit を受け取るという仕組みがあり、機能している。

一方、QCS は、主としてエラーデータの修正及び重複書誌の統合処理を集中的に行っている。また、エラータイプの統計やどのようなエラーが発生しているかについて詳しいデータも持っている (プレゼンテーションのなかで“Wall of Shame”の実例を見せていただいた)。このように中核となる集中的な対処と協力プログラムによる参加型の体制によって、

WorldCat の品質維持･向上が図られていると考えられる。

記述のエラーや重複書誌レコード発生の原因究明とそれを防止する方策については、現在のところ特に対処はされていないようだった。

3 WorldCat ユーザの研修･サポート

3.1 役割分担

ユーザに対する研修･サポートは RSP の役割であり、OCLC は、基礎的な教材の提供、RSP の研修担当者に対する研修を行っている。

RSP に対しては、年に 2 回 OCLC において、新サービスの説明と研修を実施する。

RSP を介さず、OCLC に参加している図書館に対しては、OCLC が直接サポートしている。

3.2 研修内容

OCLC における目録関連の研修プログラムは、目録システムの利用方法が中心であり、目録規則等の知識習得･技術向上は含まれていない。

一方、実際に個々の図書館員に研修コースを提供している RSP は、目録規則関連も含めて、実にさまざまなコースを用意している。これらの研修コースは、殆ど RSP が独自に開発している他、RSP 間における研修コースの共同利用も進められている。

3.3 研修方式

研修方法としては、ワークショップ（集合型）、オンライン･ワークショップ（Live Online）、Web ベースの自習型（self-paced）の 3 タイプが組み合わされて提供されている。

中心は、従来型のワークショップであるが、Live Online と呼ばれているオンラインのワークショップが増えている。これは、講義型の遠隔教育ソフトウエアを用いて、距離の問題の解消と対話性の維持を図る研修方式である。

自習型は、初歩的･基礎的な研修に向いており、ワークショップの予習や復習としても活用できる。

RSP における研修プログラムは、これら 3 つの研修タイプを組み合わせることによって、会員のニーズに対応した研修コースを構成しているということができる。

3.4 研修成果の確認とフォローアップ

研修内容を理解できたかどうかの確認をどのようにしているかについては、RSP によって異なるようである。Amigos では、自習型研修については、短いレポートの提出を課しているが、集合型やライブオンライン研修ついては、何も求めていない。フォローアップとしては、受講の 1 か月後位に受講の成果について図書館に尋ね、場合によっては再受講も可能としている。

PALINET では、ワークショップについて受講後にアンケートと受講者自身の理解度を評価したシート「学習成果受講者評価」を提出してもらうことになっている。この評価は、Excellent, Very Good, Good, Fair, Poor の 5 段階で示すことになっているが、Poor と評価された事項については、個別に連絡をとって対応し、再受講（無料）を要請することもあるとのことだった。

4 WorldCat の品質低下の要因

WorldCat の品質低下の要因について、RSP の担当者に聞いてみた。

意見としては、図書館専門職（MLS：Master of Library Science あるいは MLIS: Master of Library and Information Science 取得者）の目録担当者が減少し、非専門職（paraprofessional）による目録作成が増えたこと、図書館学校において目録関連のコースが減少していること等が挙げられた。また、目録規則の変更や WorldCat が MARC と DC（Dublin Core Metadata）という二つの標準レコード形式を含んでいることもその要因ではないかとの意見もあった。

図書館専門職の目録担当者が減少していることは、研究図書館協会（Association of Research Libraries）の調査でも示されているが、その傾向自体が問題とは思われない。OCLC のような書誌ユーティリティによって目録作業がシステム化され、コピー目録処理などの機能ができた結果、目録処理

が効率化された。目録の質もここ何十年の間でみるとむしろ向上しているという見方もあるようである。米国において、目録データベースの品質が低下しつつあるのかどうか、低下しているとして、その主たる要因が何であるかを見極めるのはなかなか難しいことが窺われる。当面、対症療法的な対応をせざるを得ない所以とも考えられる。

【謝辞】

講習会 WG のメンバーと NII の担当者による今回の現地調査では、短い期間であったにもかかわらず、世界最大の書誌ユーティリティである OCLC の WorldCat をベースにしたさまざまなサービスの展開と体制づくり、そのなかでの目録データベースの品質管理と研修プログラムについて深く学ぶことができた。このような機会を提供していただいた国立情報学研究所と講習会 WG メンバーの海外出張について便宜を図っていただいたそれぞれの機関に感謝を申し上げたい。

そして何よりも、多忙ななか、訪問調査を快く受けていただき、丁寧かつ辛抱強くわれわれの質問に答えていただいた訪問機関の方々にお礼を申し上げる。人的なつながりもできたように思われる。以下に、お名前を挙げて、心からの感謝としたい。

訪問調査に対応していただいた方々

OCLC Online Computer Library Center
Mr. Andrew H. Wang, Executive Director, OCLC Asia Pacific Services
Ms. Shun-En Tsai, Director, OCLC Asia Pacific Services
Ms. Hisako Kotaka, Senior Product Manager, Cataloging & Metadata Services
Ms. Brenda Block, Quality Control Section
Ms. Kathy Kie, Manager, Independent Customer Services

PALINET
Ms. Catherine C. Wilt, Executive Director
Ms. Ann C. Yurcaba, Chief Program Officer
Ms. Diana Bitting, Manager, Educational Program
Ms. Kristin Senecal, Library Consultant

Amigos Library Services
Ms. Bonnie Juergens, Executive Director
Mr. Robert Watkins, Associate Executive Director, Member Program Development
Ms. Laura Kimberly, Assistant Director and Manager of Continuing Education Services

University of Pennsylvania Library
Ms. Sandra Kerbel, Director, Public Services
Ms. Marjorie Hassen, Assistant Director, Research and Instructional Services
Mr. Nick Okrent, Librarian, Information Literacy/Undergraduate Services
Mr. John Michael Kiser, Manager, Courseware Management System
Mr. Robert Krall, Interlibrary Loan/Document Delivery
Mr. Joseph Zucca, Assessment, Planning and Publications Librarian

University of Texas at Dallas Library
Ms. Loreen Phillips, Head of Information Literacy Services
Ms. Debbie Montgomery, Head of Electronic Resources

附 1 地区サービス･プロバイダ/サービスセンター一覧

地区サービス･プロバイダ サービスセンター	所在地	サービスエリア	Website
Amigos Library Services, Inc.	Dallas, Texas	アリゾナ、アーカンソー、ニューメキシコ、テキサス	http://www.amigos.org/
BCR (Bibliographical Center for Research)	Aurora, Colorado	アラスカ、コロラド、ハワイ、アイダホ、アイオワ、カンザス、モンタナ、オレゴン、ネバダ、ユタ、ワシントン、ワイオミング、カナダ	http://www.bcr.org/
FEDLINK (Federal Library and Information Network)	Washington DC	米国連邦政府の図書館、情報センター	http://www.loc.gov/flicc/
ILLINET (Illinois State Library)	Springfield, Illinois	イリノイ	http://www.cyberdriveillinois.com/departments/library/who_we_are/OCLC/home.html
INCOLSA (Indiana Cooperative Library Services Authority)	Indianapolis, Indiana	インディアナ	http://www.incolsa.net/
MINITEX (A program of the Minnesota Office of Higher Education and the University of Minnesota)	Minneapolis, Minnesota	ミネソタ、ノーズダコタ、サウスダコタ	http://www.minitex.umn.edu/
MLNC (Missouri Library Network Corporation)	St. Louis, Missouri	ミズーリ	http://www.mlnc.org/
MLC (Michigan Library Consortium)	Lansing, Michigan	ミシガン	http://www.mlcnet.org/
NEBASE (Nebraska Library Commission)	Lincoln, Nebraska	ネブラスカ	http://www.nlc.state.ne.us/netserv/nebase/nebserv.html
NELINET, Inc.	Southborough, Massachusetts	マサチューセッツ、コネチカット、ロードアイランド、ニューハンプシャー、バーモント、メイン	http://www.nelinet.net/
Nylink	Albany, New York	ニューヨーク	http://nylink.org/
OCLC CAPCON Service Center	Washington DC	コロンビア特別区、メリーランド、バージニア	http://www.oclc.org/capcon/
OCLC Western Service Center	Ontario, California / Lacey, Washington	アラスカ、カリフォルニア、ハワイ、アイダホ、モンタナ、オレゴン、ワシントン	http://www.oclc.org/western/
OHIONET	Columbus, Ohio	オハイオ	http://www.ohionet.org/
PALINET	Philadelphia, Pennsylvania	デラウエア、メリーランド、ニュージャージー、ペンシルバニア、ウエストバージニア	http://www.palinet.org/
SOLINET (Southeastern Library Network)	Atlanta, Georgia	アラバマ、フロリダ、ジョージア、ケンタッキー、ミシシッピー、ノースカロライナ、サウスカロライナ、テネシー、バージニア、プエルトリコ、バージン諸島	http://www.solinet.net/
WiLS (Wisconsin Library Services)	Madison, Wisconsin	ウィスコンシン	http://www.wils.wisc.edu/

附 2　WorldCat の協力原則　(仮訳)

(http://www.oclc.org/worldcat/contribute/principles/)

WorldCatは当初から共同分担目録の基盤かつ事実上の国際的な統合目録として利用されてきた。OCLCの図書館間相互貸借やレファレンスサービスの開発は、この中核となる書誌資源の上で資産化され、価値が付加されてきた。

WorldCat とその関連ファイル及びその上に構築された OCLC のシステムやサービスは、米国及び増え続ける世界の図書館の運営とサービスにとって極めて重要なものとなっている。

WorldCat の妥当性は次の 4 つの要因に基づく

・WorldCat の収録範囲、図書館の蔵書のどの範囲までを反映しているか
・WorldCat の適時性
・WorldCat 及び関連ファイルを構成するレコードの正確性と完全性
・レコードやサービスへのアクセスや利用を支援する OCLC のシステム及びソフトウエアの機能性と柔軟性

これらの要因の重要性を認識して、会員館、地域ネットワークその他のパートナー及び OCLC は共に WorldCat を構築、維持し、OCLC レコード、システム及びサービスの責任ある利用を推進する。

運営会員館 (Governing Member) の取り組み

・現在あるすべての蔵書の書誌、所蔵情報を OCLC に登録する
・OCLC が採用する規則やガイドラインに則って書誌レコード及び関連データを可能な限り完全なレベルで作成する
・書誌レコード及び関連データの登録とレコード及び図書館資源の共同利用の促進を支援する
・OCLC、地域ネットワークその他のパートナー及び参加図書館と協力して、登録情報のエラーの発見、修正を行い、重複レコードの発生を防ぐ
・OCLC レコード、システム及びサービスの利用を許諾されたユーザに限定する

会員館のこのような取り組みを支援するための地域ネットワークその他のパートナーの取り組み

・OCLC への参加を働きかける
・会員館に対して完全で、タイムリーなレコードの登録を奨励することにより、WorldCat を強化する
・OCLC と会員館のコミュニケーションを円滑にして、共通の懸念に関する課題に対して効果的に計画し、解決を図る
・質の高い、費用効果の高い研修や相談、サポートを提供して、OCLC レコード、システム及びサービスの効率的な利用と拡張機能のタイムリーな採用を促す

このような会員館の期待を可能にするための OCLC の取り組み

・OCLC のレコード、システム及びサービスの認定ユーザとしての図書館の参加を促進する
・OCLC の公的目的に則り、情報技術や目標、組織、会員館の協力合意の変化に対応する
・費用対効果の高い方法を提供して、WorldCat 及び関連データベースへの情報の登録や OCLC への変更や訂正の報告を会員館が迅速かつ効率的にできるようにする
・OCLC のシステムとサービスへの簡単で、費用効果の高いアクセスを促進し、すべての会員館とその利用者がその便益を享受できるようにする
・WorldCat その他のファイルへの目録その他のデータの登録のための規則やガイドラインについて、明解で、タイムリーな文書を提供する

会員館、地区ネットワークその他のパートナー及び OCLC 共通の取り組み

・図書館・情報コミュニティに対する WorldCat 及び関連サービスの継続的な存続を保証する
・OCLC システムとサービスの効果的な教育・研修を推進する
・この声明及び関連の文書を現在及び将来の OCLC レコード、システム、サービスのユーザに広く周知する

附 3　各機関の戦略計画　（仮訳）

OCLC、PALINET、Amigos はいずれも戦略計画あるいはそれに類するものを公表している。今回の訪問調査で資料をいただいたので、参考にその一部を仮訳する。

1　OCLC「グローバルな協力拡大を再構成する」（OCLC 会長　Jay Jordan　2006 年 5 月 22 日　於 OCLC メンバー評議会会議）

はじめに

最近 5 年間に、海外における参加図書館の数は、6,000 館から 10,500 館に、国数は 75 から 108 か国に増加した。2005 会計年度における国際活動からの収入は、36.3 百万ドルで、全収入の 19.2%であった。2000 会計年度においては、9.3%であった。6 月に終わる 2006 会計年度について、国際活動からの収入を 46 百万ドルと見積もっている。これは全予想収入 207.4 百万ドルの 22.2%にあたる。

OCLC には 109 か国の 54,400 の図書館が接続されているとはいえ、より大きい図書館協力の世界はいうまでもなく、書誌世界のセンターとなるにはほど遠い。OCLC には、戦略的なパートナーがいる。2, 3 例を挙げると、IFLA、LIBER、ARL, Bill & Melinda Gates Foundation, 議会図書館、英国図書館、ドイツ国立図書館、CALIS, TEBNET, CONCERT 及び KERIS である。これらのパートナーの支持者層や会員は、しばしば OCLC と重なっている。米国においては、OCLC の会員館の 99.9%が地区ネットワークまたは地区サービスセンターを介して参加している。これらの組織は、同じ目標を共有し、研究、学術、教育、情報へのオープンなアクセスの進展に取り組んでいる。

情報が国境を越えて流通し、技術的な障害がなくなってきているが、経済、法律及び経済的な課題は依然として続いている。したがって、以前にもまして、われわれの公共的な目的が確固たるものであることが重要である。グローバルな図書館協力の新しい地図を描くにあたって、われわれはこれからも OCLC のミッションとビジョンで定義した原則にしたがっていくことになる。

ミッション：OCLC の存在意義は、世界の情報へのアクセスをさらに進め、図書館及びその利用者に対するサービスを提供することによって、図書館の経費を節減することにある。

ビジョン：OCLC はグローバルな図書館協力のリーダとなり、革新と協力を通して、知への経済的なアクセスを提供することにより、図書館の人々に対する奉仕を支援する。

戦略的概観

われわれの目標は、世界中のできるだけ多くの図書館、その他の文化遺産組織が OCLC のサービスと事業を利用できるようにすることである。この目標を達成するために、われわれは WorldCat と OCLC サービスをこれまで以上に包括的で、利用可能なもの、そして有用なものとする。確かに、WorldCat は、

・図書館、図書館蔵書、図書館サービスの包括的なレジストリ
・図書館資料を見つけ、それを家庭、オフィス、あるいは PC に届ける第一次的なチャンネル
・図書館がネットワークレベルで、印刷体とデジタルコレクションを統合する際の中核的なツール

となる。

われわれは国別、地域別及び機関毎に協力の機会を追求する。その指標は、

・新規会員館数の増加
・現会員館による諸サービスの導入
・維持と更新
・知的財産における貢献
・財政的貢献

である。

本当の意味でグローバルになるために、OCLC は以下のことを実施しなければならない。

・各国市場の類似点を見つけることにより、スケールメリットを獲得すること
・各国の特定の利用者のニーズに合致できるように、製品やサービスをそれぞれの言語や多様性に対応させることにより、国レベルでの応答を可能とすること
・いろいろな市場を越えたコミュニティを形成し、いろいろな国の代表からなるフォーラムを開催しやすくすること

グローバルな図書館協力組織となるということは、米国国内の製品を輸出することではない。われわれの戦略は、世界中の会員の知識、研究及び経験を活用して、有用なサービスの形成、国際基準の開発、図書館資料の共有の促進及び末端利用者が必要とする情報をいつでも、どこからでも利用できるようにすることである。

グローバル化は、広範囲のローカル化である。ローカル化は、インタフェースを翻訳する以上のものである。それは、英語でないコンテンツへのアクセスを提供することである。それは、マーケティング、販売、市場調査を現地で実施できるように、地域との連携を形成することである。それは、地域の技術資源を活用できるように合同の開発プロジェクトに関することである。それは、現地言語のパートナーとの研修・教育を提供する協力関係に関することである。

最後に、われわれの戦略では、機関が OCLC に参加するのは、情報資源の入手性を増大させるためであり、費用の上昇率を低下させるためであると認識している。米国以外では、OCLC は予想される OCLC 会員の特定ニーズや経済状況に合わせた価格設定をしている。さらに、OCLC は価格をできるだけ低く抑えようと努力しており、同時に成長、技術的なプラットフォームの向上及び研究開発を容易にするための強固な財政的基盤を維持している。

WorldCat

OCLC の中核サービスはもともと英語圏の人々のために開発された。WorldCat が MARC と AACR2 に基づいていたことはよく知られている。WorldCat には 460 種の言語で書かれた資料が含まれており、ほとんどのレコードはアルファベットで表示される。しかし、英語圏以外、米国以外の図書館にとって問題を引き起こしている。それは、書誌の形態、目録規則、典拠標目及び文字セットが異なるという問題である。これらは最近まで OCLC のグローバル地図において重大な障害であった。

しかし、新しい技術的プラットフォームのおかげで、われわれはその地図の書き直しを開始した。新プラットフォームはオープンアーキテクチャーモデルに基づいており、OCLC サービスや外部のサービスとの相互運

用性をサポートする。また、MARC だけでなく、Dublin Core、FRBR その他の標準もサポートする。新しい Unicode 機能によって、すでに WorldCat でサポートされていたアラビア語、中国語、韓国語、日本語の文字及びラテン文字に加えて、キリル文字、ギリシャ文字、ヘブライ語、タイ語、タミル語の文字も組み込むことができた。

Connexion 目録作成サービスは、簡体字、繁体字、英語、ドイツ語、日本語、韓国語及びスペイン語のインタフェースを持っている。FirstSearch レファレンスサービスでは、アラビア語、簡体字、繁体字、英語、フランス語、日本語、韓国語及びスペイン語のインタフォースを持っている。バーチャルレファレンスサービスである QuestionPoint に参加している図書館は、25 種の言語で書かれた質問を受け付けている。

WorldCat は驚くべき速さで成長している ― 図書館は 2006 年にすでに 700 万件のレコードを登録した。すなわち、

・2006 年 5 月 19 日	6,900 万レコード	Tilburg University, Radbound University Nijemegen, オランダ
・2006 年 5 月 1 日	6,800 万レコード	Edinboro University of Pennsylvania
・2006 年 4 月 18 日	6,700 万レコード	The Peace Palance Library, オランダ
・2006 年 4 月 9 日	6,600 万レコード	Arnhem Public Library, オランダ
・2006 年 3 月 20 日	6,500 万レコード	Leiden University Library, オランダ
・2006 年 2 月 17 日	6,400 万レコード	Cornell University Library
・2006 年 1 月 18 日	6,300 万レコード	Toronto Public Library

この成長の要因としては、バッチ登録性能の改善に起因する部分もある。現在われわれは一日あたり最高 80 万レコードを処理することができる。そして、目標は 2006 年末までに、一日の処理能力を 200 万レコードまで高めることである。急速な成長のもうひとつの理由は、Dutch Central Catalogue を登録したことである。それには、約 930 万レコードが含まれている。

昨年、米国以外の重要なメタデータを WorldCat に追加した。それらは、Finnish National Bibliography, the National Library of Education of Denmark, 英国の the LinkUK public Library consortium であり、つい最近では、Dutch Central Catalogue と National Union Catalogue Poland があった。ドイツ語、アイスランド語、韓国語、ロシア語、スウェーデン及び台湾の総合目録について協議が行われている。

今後数か月の内に、オランダ、台湾及びイギリスの図書館蔵書が Open WorldCat 事業の“Find in a Library”に登場するだろう。

WorldCat がより大きく、よりよくなっていくにつれて、世界中の図書館にとって魅力あるものとなっていく。実際、米国外の図書館は WorldCat に所蔵を登録する理由として次の 6 つを挙げている。

・ユニコードのサポート
・FRBR 化目録の性能
・Web 上の Open WorldCat
・Group catalog 機能とカスタマイズ
・WorldCat 蔵書分析サービス
・国際的な資源共有

【中略】

前に進む

われわれ OCLC の者は、2007 年にケベック市で開催されるメンバー評議会会議を楽しみにしている。それは、OCLC 協力組織にとって史上初のことである。当面、われわれのサービス提供や展望において、さらにグローバルになるために一生懸命働く。2006-2007 年のメンバー評議会会議において OCLC の国際活動について、継続して議論する。機密保護についての合意その他の法的な要件の範囲内において、できるだけ国際計画と国際活動についてメンバー評議会に周知することとする。また、委員に対して、そのコミュニティのなかで OCLC の協力組織に利するような機会を見つけたら、知らせてくれるように依頼する。

今日の OCLC 協力組織の地図は、5 年前のものとは相当異なっている。われわれの地図が今後の 5 年間において、あらたな協力の努力と機会を示すものであることを期待する。われわれは、引き続き地図の探索、投資、見直しを進めなければならない。

2 PALINET 「PALINET の戦略計画 2005-2008」

(http://www.palinet.org/documents/strat-plan-web.pdf)

諸原則

われわれは、図書館及び文化的組織が自由で、情報を基盤とする社会への貢献において、中核的な役割を果たすと信じ、これらの組織がその知名度を高める努力を支援する。非営利の会員制組織として、会員の成功にとって不可欠の支援を提供する組織として、以下の諸原則を明示する。

会員中心であること — 会員のニーズ及び会員がその利用者のために成し遂げようとしていることを理解し、利用者ニーズへの対応を支援する

品質への取りくみ — 顧客の期待に応え、それを超える革新的な方法を見出す

顧客サービス — タイムリーで正確かつ丁寧なサービスを提供する

効果的なコミュニケーション — PALINET がどのように会員のニーズに対応しているか、会員であることによってどんな価値を受けることができるかについて理解を助ける

アクセスの容易性 — サービスを会員に近づける

使いやすさ — 情報技術を活用して、会員及びその構成員が情報技術のもたらす恩恵を受けることを可能とする

機敏性 — 新しい機会に迅速かつ柔軟に対応する

財務上の責務 — 多様な収入源によって健全な財政基盤を構築する

目標と戦略

サービスを拡大し、会員との連携を強化する

・新たなサービス、新規開発事業を見つける

・ビジネスパートナーとの関係を強化して、優先的顧客としての PALINET の地位を高める

・ビジネスパートナーとの仕事においてリーダシップを発揮し、会員の費用と時間を節減しつつ製品の品質を保証する
・情報技術の最新動向に関する情報を提供し、情報資源や専門知識につなげる。
・会員との連絡に情報技術を使い、経費を節減する
・会員であることの価値を伝え、会員からの意見を集め、PALINET のサービスについての研修を提供する
・他の異なる会員集団にアッピールできるようにプログラムを合わせる

会員館の職員の資質を向上させる

・職員のスキルが最新かつ有効でありつづけるためのプログラムを開発する。
・情報環境の急速な変化を受け入れることの価値を高めるコミュニケーションやプログラムを設計する。
・種々の地位や図書館の専門性に焦点をあてた教育プログラムを幅広く提供する。
・遠隔教育技術を用いて、地域のどの場所においても、研修を受講できるようにする
・プログラムを共同提案することによって他の集団と連携する。

協力関係の推進においてリーダシップを発揮する

＜会員との協力関係＞
・ベストプラクティスを会員間で共有することによって、変革を促進する
・物理的かつ仮想的な利益コミュニティを創造し、推進する。
・仮想的な（オンラインによる）サービスや会議を拡大する。
＜州、地域、全国組織との協力関係＞
・共同プロジェクトを開拓する
・会員に多くの利益をもたらす提携関係や新規事業を形成する
・コンソーシアム、州立図書館や関連団体と手を結んでサービスへのアクセスを拡大する
・コンソーシアム、州立図書館や関連団体のためのサービスを開発する

先導的な情報技術アドバイザーとしての地位を高める

・会員の新情報技術の導入や実行を手助けする
・新しいサービスの配布を迅速に実行するための内部能力を創造する
・最新の情報技術を使っている専門家やベストプラクティス知って、他の人も情報を利用できるようにする

PALINET が州を超えた、多様な側面をもつ組織であることの認識を広め、その強い地域アイデンティティを拡充する

・PALINET の知名度と存在感を高める。
・複数の州にわたって活動することによる PALINET の価値（規模、範囲、機動性）を強調する
・情報技術の活用や地域における会合によって、さまざまな地域の会員をひとつにする

3.Amigos Library Services 「Amigos の戦略計画　2007 まで」

（http://www.amigos.org/strategic_plan.html）

ビジョンと価値

戦略的ビジョンはサービスのひとつである。Amigos は、他の人々に奉仕する人々に奉仕する。われわれは、ダイナミックなアプローチをとって、会員のニーズを予測し、革新的なサービスにつなげる。われわれは図書館を尊敬し、図書館に奉仕し、図書館がその目標を効果的、創造的かつ経済的に達成できるように支援する。われわれは図書館がその多様なコミュニティに対してもたらす価値を尊重する。われわれは図書館を支援し、図書館が社会に対して奉仕する能力の向上に協力して取り組む。

Amigos の維持すべき役割は、会員間の協力を容易にすること、情報及び支援の提供、情報サービス業者と有利に交渉すること、研修を通して会員のサービス能力を向上させることである。われわれは会員に選ばれるサービス供給者となるように努力する。

Amigos の使命

・図書館に革新的なサービスを提供する
・図書館協力と資源共有を推進する
・コミュニティにおけるリーダとしての図書館を強化する
・教育と情報の提供者としての図書館を支援する

達成目標

目標 I　会員に対するサービスを拡大する

戦略:

・Amigos の計画を使いやすい、利便性の高いものにする
・Web ベースの情報及びサービスアクセスを拡大する
・図書館ネットワーク活動における会員の関与を拡大する
・Amigos プログラムを支援するために外部資金を開拓する
・Amigos プログラムへの会員の参加を強化するために、会員構成を改善する

目標 II　会員館にリーダシップのためのツールを提供する

戦略:

・リーダシップスキル研修やツールを提供することにより、コミュニティのなかの図書館を支援する
・会員館がそれぞれのコミュニティにおいて計画を実行しようとする努力を支援する
・図書館ネットワーク活動における会員の関与を増大させる
・図書館ネットワークにおける会員どうしの援助や指導活動を拡大する
・トレンド情報をタイムリーに提供し、会員の情報技術計画を支援する

目標III　中核サービスを継続して強化する

戦略:

・最大限の共同購入力を引き出す
・電子情報への経済的なアクセスを促進する
・Amigos 研修プログラムの多様化、拡大を続ける

指針

・図書館のニーズに対応した費用効果の高い、技術集約的なサービスを提供する
・情報アクセス、保存、会員の情報資源の共同利用に徹したプログラムを推進、開発、支援する
・図書館における情報技術の導入を強化するために費用効果の高い革新的な研修及び支援プログラムを提供する
・Amigos のプログラムを評価し、会員のニーズに対応した改善が継続して行われていることを確認する
・会員のニーズに対して、協力型で、自由な形の、参加型の支援を提供する
・多様なサービスモデルを実験し、サービスを拡大する機会を開拓する
・適切な資金、人材、施設・設備により強固な財務を維持する

Amigos の伝統

Amigos Library Services は、22 の図書館が米国南西部において OCLC にアクセスするために連合した、1974 年にテキサス州のダラスで、Amigos Bibliographic Council として始まった。

非営利で、会員制の組織として、Amigos は全国で最も大きな図書館サービスネットワークのひとつである。会員は、主としてアリゾナ州、アーカンソー州、カリフォルニア州、ニューメキシコ州、オクラホマ州及びテキサス州にある 700 以上の図書館と文化機関からなり、以下の Amigos の包括的な諸サービスを利用している。

・OCLC へのアクセスとサポート
・研修及びワークショップ
・技術的支援出版物
・用品と電子コンテンツについての割引
・レファレンス・データベース
・災害対応と回復
・保存情報
・画像データに関する相談とサポート
・図書館間の配送サービス
・通話料金無料の電話サービス